



## はじめに

この度、松山市と愛媛大学が連携し、環境教育プログラム『子規「散策集」をたどるまち歩きと松山の魅力再発見！』を策定いたしました。

本プログラムは、松山市ならではの環境教育の一つの形を示せないかとの思いの下で策定されました。それは、地域の文化や風土に根付いた学びを子ども達が実践する中でこそ、地域に対する愛着や誇りが育まれ、地域を守り育てていく力が身につくと考えたためです。そこで、私たちが着目したのが、正岡子規の「散策集」です。

子規は、松山出身の明治を代表する文豪として、今もなお松山市民から愛され続けています。そして、子規自身もまた「世に故郷ほど、こいしきはあらず。花に月にも喜びにも悲しみにもまず思い出でらるるは故郷なり」と記しているように、松山の故郷を常に思い続けていました。そんな子規が、病気の静養のために帰郷している間、松山のまちを歩き、詠んだ俳句をまとめたものが「散策集」です。

——子規は、ふるさと松山のまちをどのような気持ちで歩き、そこで何を感じたのでしょうか。

本プログラムでは、子ども達が子規の歩いた道のりを辿り、子規が詠んだ俳句から、子規が見た当時の風景やそこで感じた気持ちに想いを巡らすことに主眼を置いています。そして、今度子ども達自身が今の松山の風景から自分達の俳句をつくり、現代版の「散策集」づくりに取り組んでいきます。この様に、百年以上の月日を越えた追体験の旅をしながら、松山の地域文化の継承・発展に主体的な関わりを持つことに本プログラムのねらいがあります。

今回のプログラムが、子ども達の豊かな体験と次世代の文化的発展につながる取り組みのきっかけになれば望外の喜びです。本プログラムの方策にご協力頂きましたすべての方々へ、心より御礼申し上げます。

平成二十九年二月二十八日

監修・執筆

愛媛大学 羽鳥剛史

